JR西日本 2017.6〜

Guttokuru-Sanin

グッとくる山陰

2017 Summer 夏

ご自由にお持ち帰りください

［特集］

中世石見歴史探訪

〜古文書から紐解く豪族 益田氏の足跡〜

［山陰の逸品］

歴史薫る佳味・佳品

［グッとくるコラム］

地元愛あふれる、しあわせなレストラン

上田 幸治 山陰いいもの探県隊 隊員

ヴィオラは山陰の風土に合う音色

生原 幸太 山陰いいもの探県隊 隊員

【表紙写真】高津川

国土交通省の水質検査で、幾度も水質日本一に選ばれている清流。
ダムのない一級河川としても知られ、常に新鮮な清流で育つ鮎は香りが高い。
中世には、外海と内陸の結節点として、各所に湊が営まれていた歴史がある。

地元愛あふれる しあわせなレストラン

すぐ目の前には、青い日本海が広がっていた。益田市の小高い丘の上に建つ『レストラン・ボンヌママン・ノブ』は、オープンして16年になるフレンチのお店。オーナーシェフは、上田幸治さん。「今日は夏みかんをたくさんいただいたので、お肉をさっぱりさせたくてソースに使ってみました」お店で使う野菜は、ほとんどが地元産。お世話になっている地域の生産者さんたちに、スポットを当てたいとの思いがある。

東京の専門学校に進学した当時は、「有名になりたい。東京が絶対」と考えていたが、フランス研修でその思いは一変する。「友人とリヨン郊外へ行き、地元の小さなお店に入ったんです。高級な食材も、高価なカトラリーも使っていないのだけれど、季節の食材で作る料理は本当においしいし、まわりの人たちがとても楽しそうに暮らしている。そのとき気づいたんです。心の豊かさの方が人間らしい。俺、こういうお店がやりたい！そうなると東京ではなく、益田だよなって」あの日19歳で見た夢を、29歳で実現させた上田シェフ。「益田での暮らしには、物質的ではない、フランスで感じた精神的なしあわせがあります」と清々しい。

芝生のテラスに出れば、偶然にも、山陰本線を走る“瑞風”が見える立地。上田シェフは、車内で提供される料理の開発・監修に携わる“食の匠”のひとりに抜擢されている。

山陰いいもの探県隊 隊員

上田 幸治（うえだ こうじ）

『レストラン・ボンヌママン・ノブ』オーナーシェフ

島根県益田市出身。
実家は4代続く老舗『料亭 上田』。高校卒業後、エコール辻東京に進学しフレンチシェフを目指す。フランス研修を経て、卒業後、28歳まで東京の高級レストランで修行。益田に帰った翌年の2001年、29歳で『レストラン・ボンヌママン・ノブ』をオープンさせた。
島根県益田市高津町ロ485-18 TEL:0856-23-2060
アクセス:JR益田駅より車で10分
http://www.bonne-maman-nobu.com/

ヴィオラは山陰の風土に合う音色

ヴィオラという弦楽器をご存知だろうか。姿かたちはヴァイオリンと全く同じなのだが、大きさがヴァイオリンよりもひと回り大きい。大きくなる分、音域は低くなる。中音域という、ちょうど人の声と同じ高さを担当し、ヴァイオリンほどの派手さはないものの、くすんだ「地味」な音色が特徴だ。

山陰の風土の特徴は、晴れていてもどこか雲がこんもり漂っているあか抜けない空、曇天が続いたときの重厚な空気感。上述したヴィオラの音色は、まさに山陰の地味そのものだ。音楽を奏で、創るには自然からのヒントが必要不可欠。大作曲家ベートーヴェンは、ウィーン郊外ハイリゲンシュタットの森を散歩しながら曲の構想を練ったし、その後継者とされるJ.ブラームスも同様、散歩を好み、アルプスの山並みに囲まれた静かな湖畔にて、数々の傑作を生み出した。自然豊かな山陰は、極上の音楽を奏でるためのヒントが満載だ。6月17日から運行開始されるトワイライトエクスプレス瑞風、私はその車内にて生演奏を担当する。旅を演出する花にはならないかもしれないが、お客様の記憶にいつの間にか浸透しているような「地味」な音色をお届けしたいと思っている。

山陰いいもの探県隊 隊員

生原 幸太（いくはら こうた）

ヴィオラ奏者

鳥取県北栄町出身。
5歳よりヴァイオリンを始める。早稲田大学在学中、ヴィオラの渋くて落ち着いた音色に魅せられ、音楽家として生きることを決意。周囲から惜しまれながらも大学を中退。愛知県立芸術大学音楽学部を卒業。『歌』をベースにした味わい深い音色と、アンサンブルにおける抜群の安定感が各方面から高い評価を得ている、注目のヴィオラ奏者である。
2017年1月に3作目のCDをリリース。

AR観光アプリ 縁むすび スマートナビ
縁ナビ 検索

TWILIGHT EXPRESS 瑞風（みずかぜ）
みずかぜ 検索

グッとくる山陰 夏号

発行元／JR西日本米子支社 鳥取県米子市弥生町2
☎0859-32-0255 ＊記載の情報は、2017年6月1日時点のものです。

実はとっても奥深い！魅惑の「山陰」探県記
山陰 いいもの 検索 右記コードからサイトへGO! →

中世石見歴史探訪

～古文書から紐解く～豪族 益田氏の足跡～

雪舟筆
益田兼堯像
（国指定重要文化財／益田市所蔵）

文明11年（1479）の作。
烏帽子［えぼし］に大紋［だいもん］姿の武家の正装。右手に中啓［ちゅうけい（※）］、左に腰刀を差し、上畳に座す兼堯。品格高い容貌を正確にとらえていると伝わり、両者の好ましい信頼関係がうかがえる傑作。
（※）先の広がった扇

源頼朝の命を受けた壇ノ浦の戦い（1185年）や、大内政弘に従った応仁の乱（1467年）など、数々の戦で武勲をたてた一族が石見国（島根県西部）にいました。毛利氏に臣従して関ヶ原の戦い（1600年）で敗れ長門国（山口県）に移るまでの約400年間、現在の島根県益田市に本拠を置き勢力を誇った山陰の豪族、名を益田氏。そのイメージは勇ましい戦国の武将ですが、ここでは、芸術文化を好んだというもう一方の視点から益田氏に迫ってみようと試みました。

医光寺 雪舟庭園（国史跡および名勝）

広さ2,198㎡（666坪）、文明10年（1478）頃、来山した雪舟が築いた池泉鑑賞半回遊式庭園［ちせんかんしょうはんかいゆうしき］。裏山の斜面を利用した西南向きの庭は、鶴亀を主体とした武家様式で、鶴をかたどった池の中に亀島が浮かぶ。堂々たる医光寺総門は、もとは益田七尾城の大手門で、関ヶ原の合戦後、当地に移築された。高さ4m・幅4.5m。県指定有形文化財。
島根県益田市染羽町4-29　TEL：0856-22-1668
アクセス：JR益田駅からバスで約15分

雪舟のパトロンとして花開かせた東山文化

益田氏は、藤原鎌足を始祖として本来、藤原氏を名乗り、平安後期の11世紀頃に、石見国府の国司（今の県知事）として、初代国兼が赴任したことに始まります。国兼は、任期を終えた後も国府のあった現在の浜田市に定住。その後、4代兼高が、石見国で最も広い平野を有し、交通の要衝と港に適した益田荘に本拠を移して、以来、益田氏を名乗るようになりました。

政治的にも経済的にも存在感を示した益田氏は、鎌倉幕府や室町幕府、大内氏や毛利氏などの大名からも一目置かれる存在になっていました。

そして一方で、日本の乱世を勝ち抜いた益田氏400年の歴史のその中に、ひときわ芸術文化に突出した時代があったことがわかります。それにはまず、室町時代後期の東山文化を彩った画僧・雪舟を紹介しなければなりません。

雪舟といえば、幼少の頃の、こんなエピソードが有名です。それは――岡山県で生まれた雪舟が、禅僧になるために入っていた地元の宝福寺でのこと。経は読まず、絵ばかり描いていた雪舟は、こらしめのために本堂の柱に縛られてしまいます。反省し涙を流した雪舟でしたが、床に落ちた自分の涙を足の親指につけてネズミを描いたのです。するとその絵は、まるで本物のネズミそのもの。あまりの見事さに驚き、感心した住職は、雪舟に絵を描くことを許したのでした――。

その後は、京都の相国寺などで画法を学び、さらには、遣明船で明（中国）に渡って本格的な水墨画を習得して帰国。のちに、大内氏の保護下にあった雪舟を益田に招いたのが、すぐれた武士であり教養豊かな領主、15代兼堯でした。このとき雪舟60歳、兼堯58歳。年齢が近いこともあったからでしょうか、雪舟の描いた肖像画「益田兼堯像」は、堂々とした勇姿でありながら、両者の信頼関係をうかがわせるような穏やかな表情をしています。ちなみに、雪舟の現存する作品のうち6点が国宝指定。これはひとりの画家として一番多い数なのです。

日本独自の水墨画を確立した画聖として名高い雪舟ですが、180を超える庭園を全国各地に築いたことはあまり知られていないようです。中でも、医光寺、萬福寺、常栄寺（山口県）のそれは、雪舟3大庭園と呼ばれる名庭。この3つの内の2つ、医光寺と萬福寺の庭園は益田市内に現存。こうして、兼堯が雪舟を招いたことで、益田の地に「侘び」「寂び」に集約される東山文化が根付き、そして今もその余韻に浸れるのです。

萬福寺 雪舟庭園（国史跡および名勝）

広さ1,421㎡（430坪）、室町時代、雪舟が滞在し築庭した寺院様式の須弥山世界（仏教の世界観）を象徴する石庭は、心字池［しんじいけ］の護岸と三尊石［さんぞんせき］、枯滝石組［かれたきいしぐみ］が素晴らしい。現在の本堂は、応安7年（1374）、もとあった益田市中須の安福寺を、11代兼見［かねみ］が現在地に移転改築。鎌倉時代の様式を残した一重寄棟造り。
島根県益田市東町25-33　TEL：0856-22-0302
アクセス：JR益田駅からバスで約10分

毛利元就も驚いた豪華な名品の数々

当時、すでに秀でた画僧として名を馳せていた雪舟を益田に招くことは、想像するに容易ではなかったはずです。そう、やはり、芸術文化にかけられるだけの豊かな財力が必要だったでしょう。

益田氏の本拠である益田は、海上交通を利用すれば朝鮮半島や対馬、博多とも近い距離にあり、この地の利を活かして、河口域の港を拠点に積極的な交易を行っていました。水軍を編成する「海洋領主」とも称された益田氏。活発な交易で財力を獲得し、益田の地を安定的に支配していたのです。

国の史跡に指定される中須東原遺跡では、14世紀から16世紀頃の船着き場の遺構が見つかり、タイやベトナムなどの陶磁器片も出土。東アジアの国々とも交易を行っていたことがわかります。

また、萬福寺が所蔵する「華南三彩壺」は、中国の福建省あるいは広東省周辺で作られたもので、完全な形で残るものは国内でも数例。益田氏が海の道を利用して名品をコレクションしていたことをうかがわせます。

さらに、こんな豪快な史実も残されています。――大内氏の重臣・陶氏と親類関係になっていた益田氏は、毛利氏をはじめとする周辺勢力と対立する時期がありました。ところが、弘治元年（1555）の厳島合戦で陶氏が毛利氏に敗れます。その2年後には、大内氏の滅亡という悲劇がおこります。こうして、有力な同盟相手を失った益田氏は、緊張状態にあった毛利氏との関係改善を図ります。そして、ついに、毛利氏との和睦が成立。永禄11年（1568）には、19代藤兼・20代元祥の親子は毛利元就の城に出向き、数々の贈り物を献上しました。その内容は、刀剣や甲冑、馬や織物、舶来の虎皮や大量の銅銭など。莫大な財力で揃えたそれら名品の数々には、天下の戦国大名でさえ返礼品に苦慮するほどの豪華さ。加えて、当時では入手困難だった数の子やあわび、うるか等振る舞った料理の豪勢さに、元就も目を丸くしたことでしょう――。

益田氏から拝領した
中国「華南三彩壺」

中国・福建省および広東省周辺で作られたとされる「華南三彩壺」。萬福寺に伝わる。益田氏が日本海を渡って交易を行い、名品を手に入れていたことをうかがわせる逸品。

釈迦如来坐像
（医光寺所蔵）

中世益田の医光寺の東隣にあった崇観寺の本尊であった仏像。応安4年（1371）益田家11代兼見をスポンサーとして作られた。益田家が崇観寺を保護し、崇敬していたことがうかがえる。

島根県芸術文化センター
「グラントワ」

伝統的な赤い石州瓦を素材にして建てられた島根県芸術文化センター「グラントワ」。県立石見美術館と県立いわみ芸術劇場が一体となる複合施設。美術、音楽、演劇など幅広い芸術が集い、新しい文化がここから広がっている。
島根県益田市有明町5-15　TEL:0856-31-1860　アクセス:JR益田駅から徒歩15分

石州和紙

益田出身とされる万葉歌人の柿本人麻呂［かきのもとのひとまろ］が、石見国の国司であった頃（704～715年）、「民に紙漉［す］きを教えた」と記す『紙漉重宝記』※寛政10年（1798）発刊。日本一丈夫な和紙とも称され、江戸時代、大阪の商人が帳簿に用い、火災がおこったときは、素早く井戸に投げ込んだ。その後、井戸から引き上げても帳簿は無事だったと伝わるほど。

衣毘須神社

東山魁夷が、宮内庁から皇居宮殿の障壁画を依頼された際、モデルにしたともいう神秘的な場所。完成した絵のタイトルは「朝明けの潮」。宮ヶ島という岩礁の上には衣毘須神社が祀られている。砂浜の参道が満潮時になると海中に消える。
島根県益田市小浜町宮ヶ島
アクセス:JR戸田小浜駅から徒歩17分

益田氏から続く芸術文化の遺伝子

近年、益田氏が、にわかに脚光を浴びるようになったのは、古文書「益田家文書」が他に類を見ない数で残され、その研究が進んでいることが理由です。史実が記された非常に多くの古文書は、総数1万8千点。益田氏が活躍した時代の中世文書だけでも、800点という全国屈指の量を誇ります。

では、なぜ、これほどの古文書が今に伝えられているのか。そこには、本拠を他所に移しても滅亡することなく、益田氏は現代まで存続。そして、代々、古文書を尊ぶ意識が高かったということが理由にあげられます。

さらに、想像すると、石見国には良質で丈夫な和紙があったから、とも考えずにはいられません。石見の伝統工芸である石州半紙は、ユネスコ無形文化遺産。いわゆる世界遺産に登録されています。

益田市内で、ひときわ目を引く建物は、赤い石州瓦を一面に施した、芸術活動の中心地「グラントワ」。文禄の役（1592年）で朝鮮に出陣した益田氏が技術を持ち帰り、今の石州瓦が誕生したとも考えられています。

また、日本絵画の巨匠・東山魁夷が、絵のモデルにした場所は、日本海に浮かぶ岩礁の風景でした。芸術家の創作意欲を刺激する自然も、益田氏が愛したもののひとつだったのでしょう。

全国にあざやかな足跡を残す雪舟ですが、永正3年（1506）、87歳の生涯を終えた永眠の地は、ここ益田。雪舟の遺灰を納める「雪舟灰塚」が医光寺境内に建ち、今も益田のまちを静かに見守っています。

※雪舟の終焉地については諸説あり、年齢についても83歳の説がある。

金箔押十二間阿古陀形筋兜
（島根県立石見美術館所蔵）

益田家伝来の豪勢な金箔押しの兜。古文書からもわかるように、益田家が優れた刀剣や武具などを多数保有していたことを今に伝えている。

◎鳥取営業所　TEL:0857-24-2250
◎米子営業所　TEL:0859-34-1140
◎松江営業所　TEL:0852-23-8880
◎出雲市営業所　TEL:0853-21-8193
◎西日本予約センター　TEL:0088-24-4190

観光・ビジネスに便利、駅から徒歩圏内。山陰にお越しの際は駅レンタカーのご利用をお待ちしております。上記営業所にてグッとくる山陰提示で基本料金の20%割引いたします。（Sクラス限定）
※4月27日～5月6日、8月11日～20日、12月28日～1月6日は割引対象外
※Sクラス以外のクラスは割引対象外。※台数に限りがございます。
※ご利用・ご予約の際は「グッとくる山陰プラン」とお伝えください。

益田市産業経済部観光交流課
中島 光太郎

益田市教育委員会文化財課
中司 健一

益田市の歴史と文化に精通するお二人。中世益田氏、雪舟の人となりや知られざるエピソードなど興味深いお話を伺いました。毛利元就をもてなした祝い膳を再現した企画「中世の食再現プロジェクト」など、益田市の地域おこし活動にご尽力されています。

歴史薫る佳味・佳品

高級魚の旨みを詰め込みました

のどぐろは、「日本海の赤い宝石」と称される高級魚。口の中でとろける脂の旨味は、まさに白身魚の王様。その中でも島根県浜田で獲れたのどぐろは、特に脂乗りが良いと評判です。「のどぐろ旨味めぐり2缶セット」は、薄味で様々な料理にアレンジできる水煮とじっくりと煮込んだ醤油煮の贅沢な缶詰のセット。思わず頬がゆるむ旨味の違いをご堪能ください。

河上 清貴さん

骨まで食べられるやわらかさです！

のどぐろ旨味めぐり
2缶セット（水煮・醤油煮）2,270円
のどぐろ水煮缶詰
のどぐろ醤油煮缶詰 各1,080円

［取扱店］
○米子駅のおみやげ楽市（単品のみ）
○松江駅のおみやげ楽市（単品・セット）
○益田駅のおみやげ楽市（セットのみ）
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン（単品・セット）
○浜田駅のセブン-イレブン ハートイン（単品・セット）

株式会社シーライフ
島根県浜田市原井町907-2
☎0855-23-3105　http://sealife-hamada.net

伝統的陶器で暮らしに彩りを

石州嶋田窯は昭和10年に開窯。独特の焼き味を求め、石見焼きの窯元の中では唯一現在でも登り窯を使用しています。棒状の粘土を積み上げて形成する石見焼きの伝統的技法「しの作り」により、傘立、テーブルセットなどの大型陶器から茶器、茶碗などの食卓用品まで豊富に製造しています。デザイン性の高い陶器のビアカップはビールの泡立ちも良く、見て良し味わって良しの至福のひとときを演出してくれます。

嶋田 健太郎さん

お客様が求めるものを作り続けます！

ちょこビア 1,396円

［取扱店］○松江駅のおみやげ楽市

石州嶋田窯有限会社
島根県江津市後地町1315
☎0855-55-1337

柚子の爽やかな香りをそのままに

島根県益田市美都町の特産品の「柚子」を使った清涼飲料水「ゆずっこ」は、柚子の果汁とはちみつを主成分にして作られた自然の恵みみたっぷりの飲み物です。飲んでみると、柚子の香りと酸味が口いっぱいに広がり、はちみつの程よい甘さとのバランスが絶妙です。後味がさっぱりしているので、スポーツの後やお風呂上りにもオススメです。

ゆずっこ（180ml）130円

［取扱店］
○米子駅のおみやげ楽市
○松江駅のおみやげ楽市
○益田駅のおみやげ楽市
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン
○浜田駅のセブン-イレブン ハートイン

株式会社みと
島根県益田市美都町都茂846
☎0856-52-2088
http://www.kk-mito.co.jp

椋木 真司さん

夏にぴったりの爽やかな飲み物です

創業130年 津和野の銘菓

源氏巻（1本）　270円
源氏巻（3本入り）810円

「山陰の小京都」津和野にある創業130年の老舗「竹風軒」。情緒溢れる街並みに相応しい津和野銘菓源氏巻を代表とする歴史ある和菓子が店内に並んでいます。竹風軒の源氏巻は第23回全国菓子大博覧会で最高位の「名誉総裁賞」を受賞。こしあんをカステラ生地で巻き上げた程よい甘さとしっとりした食感で、昔から変わらぬ美味しさを守り続けています。

山田 浩義さん

元禄時代に生まれた歴史あるお菓子です！

［取扱店］
○米子駅のおみやげ楽市（単品のみ）
○松江駅のおみやげ楽市（セットのみ）
○益田駅のおみやげ楽市（単品・セット）

山田竹風軒
島根県鹿足郡津和野町後田ロ240
☎0856-72-1858
http://www.tikufu-ken.com

高津川に育まれた至高の逸品

「身うるか」は、天然あゆのはらわたと身を塩でじっくり寝かせて苦み・渋み・旨みを引き出した少量しか作れない贅沢な食べ物。中でも、清らかで豊かな水量を湛える日本一の清流「高津川」に育まれた天然あゆを使った「身うるか」は、高津川の清らかさを感じさせる至高の逸品。繊細な風味をそのままにお酒の肴にどうぞ。また、煮物の仕上げに少量加えるとお料理に一層の深みが増します。

隅田 達也さん

しっかりと旨みが感じられる3年熟成です！

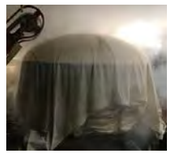
［取扱店］
○松江駅のおみやげ楽市
○益田駅のおみやげ楽市
○浜田駅のセブン-イレブン ハートイン

高津川漁業協同組合
島根県益田市神田町イ614
☎0856-25-2911
https://www.takatugawa.or.jp

高津川天然あゆ
三年熟成
身うるか（30g）1,080円

純粋無垢な日本酒本来の味わい

扶桑とは古来の日本の異称のこと。「扶桑鶴」という名前には、日本を代表するお酒として鶴のように羽ばたいていきたいという想いが込められています。蔵の近くを流れる清流日本一の高津川の清冽な伏流水を使用した「扶桑鶴純米酒 高津川」は華やかな香りをおさえ、米本来の旨みと味わいを感じさせられる、ふっくらとやわらかな口当たりの日本酒です。常温や燗で食中酒としてお楽しみください。



寺井 道典さん

日常の食事の食中酒としてどうぞ！

［取扱店］
○松江駅のおみやげ楽市
○益田駅のおみやげ楽市
○浜田駅のセブン-イレブン ハートイン

株式会社桑原酒場
島根県益田市中島町ロ171
☎0856-23-2263

扶桑鶴純米酒
高津川（720ml）1,269円
※おちょこはつきません。

戦国武将も愛した中世益田の調味料

［いりざけ］は、益田で400年続く酒蔵の純米酒に塩梅と鰹節を入れて煮詰めて作った、中世益田の食を再現した日本古来の調味料です。鰹の濃厚な旨みと梅のほのかな酸味と香りの絶妙なコラボレーションは、古くは戦国武将も愛した歴史ある味。鮎の塩焼き、さんまなどの焼き物にぴったり。豆腐やおひたし、刺身にもおすすめです。

いりざけ 905円

大賀 進さん

毛利元就をもてなした食事にも使われました！

［取扱店］
○松江駅のおみやげ楽市
○益田駅のおみやげ楽市
○浜田駅のセブン-イレブン ハートイン

丸新醤油醸造元
島根県益田市喜阿弥町イ997-3
☎0856-28-0115
https://www.marushin.club

伝統と風格漂う石州の銘酒

慶長7年創業の島根県で最も古い酒蔵・右田本店。その伝統に培われた技術を用いて作られる「宗味 改良雄町 純米大吟醸」は、島根県産の改良雄町を酒米とし、ほのかな吟醸香と米の旨みが生きたキレの良い辛口で、スッキリとした後味のお酒です。お刺身、酢の物、焼き魚、カルパッチョなどのあっさりとした料理に合わせるとお料理もお酒も一層引き立ちます。

右田 隆さん

常温または冷酒でお楽しみください！

［取扱店］
○松江駅のおみやげ楽市
○益田駅のおみやげ楽市
○浜田駅のセブン-イレブン ハートイン

株式会社右田本店
島根県益田市本町3-30
☎0856-23-0028
http://migitahonten.jp

宗味 改良雄町
純米大吟醸（720ml）2,160円

左記マークのついた商品につきましてはJR駅構内の店舗などで取り扱っております。
※掲載商品の金額はすべて税込表示です。